

象台技術部の大石正二調査課長，熊谷地方気象台の杉本豊台長，気象庁観測部測候課の徳植弘風洞係長などの御意見や御援助を載せて感謝にたえない。ここにあつく御礼申し上げたい。

### 文献

- Agee, E.M. J.T. Snow and P.R. Clare, 1976: Multiple vortex features in the tornado cyclone and the occurrence of tornado families, *Mon. Wea. Rev.*, **104**, 552-563.
- 藤田 哲也, 1973: たつまき(上), 共立出版, 科学ブックス.
- Fujita, T.T. *et al.* 1976: Close-up view of 20 Mar. 1976 Tornadoes: Sinking cloud tops to suction vortices, *Weatherwise*, **29**, 116-131.

- Fujita, T.T., 1978: Workbook of tornadoes and high winds for engineering applications, *Satellite and Mesometeorology Research Project*, **165**, 17-60.
- 石崎潑雄, 光田 寧, 川村純夫, 室田達郎, 木本英爾, 田平 誠, 1971: 1969年12月7日, 豊橋市を襲った「たつまき」に関する調査報告, 京都大学防災研究所年報, 第14号A, 481-500.
- 相馬清二, 1978: たつ巻ならびにその同類現象について, 第5回構造物の耐風性に関するシンポジウム講演.
- 東西線列車災害事故対策研究報告書. 帝都高速度交通営団, 東西線列車災害事故対策研究委員会, 昭和54年3月.
- 内田英治, 1979: たつ巻研究の諸断面, *天気*, **26**, 51-73.



### 気象ハンドブック編集委員会編 気象ハンドブック

朝倉書店, 1979年, A 5 版,  
698頁, 9800円

20年ほど前に技報堂から「気象学ハンドブック」, 10年ほど前に共立出版から「気象ポケットブック」が出ている。これらの本には, 気象に関連する数式や簡単な解説, 詳しい表や図, 公式などが載っており, たいへん便利でいまでも使っている。今度, 朝倉書店から「気象ハンドブック」が出たと聞き, この2書を連想し, それの最新刊かと思っていた。ところが手にして内容を見たところ, 全くといってよいほど違っており, むしろ, 新しい気象学—理論と応用—とでも題してよいような気象の解説書であった。

まえがきには, 気象の事典のような, 短かい知識の羅列は避けたと書いてあり, 事実その通りであるが, ハンドブックというよりは気象の事典に近い感じである。

主な項目をあげてみると, (1)気象のガイド, (2)地球と太陽, (3)大気の構造と運動, (4)気候とその変化, (5)気象器械, (6)気象観測, (7)天気図の作り方と利用, (8)最近の天気予報とその利用法, (9)気象の理論, (10)気象の実験, (11)生活と気象, (12)産業と気象, (13)交通と気象, (14)汚染と気象, (15)防災と気象, (16)気象教育, (17)気象資料とその利用, 付録, となっている。

これからわかるように, 基礎から応用まで実に広い範囲について書かれており, 気象器械, 気象の実験, 気象教育, 気象資料とその利用など, 他書にはちょっと見られない項目もある。また, 気象衛星による観測結果のカラー写真, オーロラや新しい測器の写真なども載せられており, ごく最新の知見も紹介されている。

付録には, 気象に関する各種の気候表や年表, 単位や換算式, 定数や計算式, 略号表, 気象通報の時刻, 気象官署の一覧表なども載せられている。なお, 地震の震度, マグニチュードも載せられているが, これは本書としては蛇足ではなからうか。

執筆者たちは, 気象庁, 気象研究所, 大学, 農業技術試験所, 都市教育研究所などの, それぞれの方面の専門家であり, 内容は信頼がおける。

何分にも範囲が広く, 一般の読者を対象としており, 頁数の関係もあるためであろうか, 水蒸気圧の表などが, 他のハンドブックに比較すると簡単なのがちょっと物足りない。しかし, 新しいところから古いところまで, たとえばハンチントンの気候と文明まで要領よく解説しており, 手もとにおいて, 辞書がわりに使うのもよい。700頁近くもあり, 価格が10,000円近くにもなり, ちょっと手を出しにくいかもしれないが, それだけの価値はある。

本箱の一隅に一冊おいておくと, 何かにつけ便利であろう。

(高橋浩一郎)